

魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:太田啓介 所属:町田市立南つくし野小学校 記録日: 2017年 2月 1日

キーワード:読み書き支援・漢字・作文・生活支援・スケジュール

【対象児の情報】

- ・学年:特別支援学級在籍の小学5年生男子
- ・障害名:注意欠陥多動性障がい(AD/HD)
- ・障害と困難の内容
- ・登校が遅く、遅刻が多い。学校生活のスタートがなかなかうまくいかない。
- ・ときどき服薬を忘れ、安定して学校生活を送れないことがある。
- ・診断はないが、LDの傾向がある。特に漢字の形を捉えることが苦手である。
- ・書くこと自体に抵抗感があり、作文など書くことが多く求められる学習課題が進まない。

【活動目的】

- ・当初のねらい
- ①生活時間などを自分で管理することで「自分でできた」という実感を持ち、さらなる生活の改善につなげる。
- ②書字をスムーズに行い、書ける漢字を増やすことで学習に自信をもつ。
- ・実施期間
- 平成28年6月～平成29年3月
- ・実施者
- 太田啓介
- ・実施者と対象児の関係
- 学級担任・国語／算数の学習担当

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

(1) 生活リズム

対象児は登校時刻が遅く、教室に来るのが8時40分前後となることが多かった。学区外、学校から直線距離で約1.5km、学区内を通る幹線道路を迂回するため通学路では約2kmの距離があり、主な投稿手段は家族の車である。登校が遅くなることを周囲の児童に批判的に言われたり、朝からの活動に参加できなかったりすることで、1日の学習のスタートでつまずくことがたびたびあった。また、朝の服薬を忘れたまま登校し、下校するまで安定して過ごせないこともあった。一方で校外学習などの行事があるときは、学校への集合が8時前であっても遅刻することなく活動に参加している。保護者へのアンケートでは、生活上の課題として「1人で起床すること」が課題として挙げられていた。彼の生活リズムは、朝自分から起きようとせず家族から起こされて、支度をして登校する、自分から間に合わせようとする意識が薄いことが想定された。家庭にも対象児の自主性に任せるような様子もあり、出発が遅くなることもどこか許容されていた印象があった。

(2) 学習上の課題

対象児の日常的なコミュニケーションは良好で、学習への理解力が高い。算数は学年相応に近い内容の学習ができ、他の児童が気付かないような解法を発見できるようなよさがある。一方で苦手としているのが書字、特に漢字の書字である。書字は全般的に時間がかかり、特に漢字は形を正しく捉えられず、書くための時間がかかり、苦手意識も強かった。写真1は昨年度実施した漢字テストの結果である。2年生レベルの漢字であるが、正しく形を捉えられないものが多い。2016年2月に行なった行事の振り返り作文の学習では、下書き

用メモ（写真2）を書き上げるのに授業時間として3時間ほどかかり、このメモの中で使用された漢字は「年・生・上・回（2回使用）」の全5文字であった。一方で、書写（毛筆）は見本を見ながら集中し、正しく丁寧に線の長さやとめ・はね・はらいといった要素までも意識して文字を書くことができた。写真1のテスト時や写真2のようなヒントがない状態での漢字の書字とは異なる状況であった。



写真1 漢字テスト

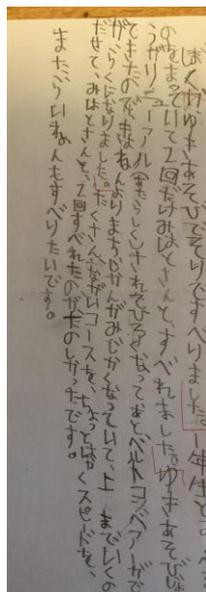


写真2 作文の下書き

(3) URAWSS によるアセスメント結果

2016年6月にURAWSSを実施し、読み書きの状況についてアセスメントを行った。その結果を以下の表に示す。読みに比べて書きに課題があることがアセスメント結果からも明らかとなった。書き課題の実施中、漢字を書くときにはどのように書けばよいかわからず進みにくくなっている様子がかがえた。一方で、漢字を読むときには読みにくそうな様子はなかった。

表1 URAWSS によるアセスメント結果

〈書き速度〉		評価
①書き課題(有意味文)	14字/分	C
②書き課題(無意味文)	11字/分	C
〈読み速度〉		
③読み課題	588字	A
内容理解	6問中3問正解	

・活動の具体的内容

(1) 生活時間の管理

自分で毎日一定時間に起きる、自分でスケジュールを管理することを目標に、「Sleep Cycle」と「生活管理スタンプ」を使用した(表2)。対象児は毎日iPadを持ち帰り、就寝時に「Sleep Cycle」をセットして入眠、起床する。また、下校してから登校するまで家で何をしたかを「生活管理スタンプ」で記録した。「生活スタンプ」の項目は活用開始時点で実施者が設定し、その後対象児が希望する項目を追加した。

2016年12月から「自宅から歩いて登校する」ことを活動内容に取り入れた。この活動で「生活スタンプ」を活用した。自宅から学校までどれだけ時間がかかるのか、遅刻しないように歩くにはいつ家を出ればよいのかを把握するために家を出る時と学校に着いた時に押すスタンプを追加した。

表2 活用したアプリ

活用したアプリ	アプリの機能
	タブレット端末のマイクとセンサーで睡眠の深さを測定し、設定時刻に近づくと最も眠りが浅い時に起きられるようにするアプリ。
	「いつ、何をしたか」を記録するアプリで、日常生活の項目を事前に設定しておき、その項目をタップした時間を記録するアプリ。

(2) 書字をスムーズに

書字をスムーズにすることを目的に、表3に示した3つのアプリを活用した。対象児は書字に時間がかかり、特に漢字の書字を苦手としている。一方で書字の見本があるとそれを見て丁寧に書くことができる。そこで「7notes」を使い、作文課題の下書きを行うようにした。メモアプリ上での入力修正も容易で、対象児は担任と時々確認しながら文章を入力していった。入力はフリック入力で行った。清書の際には「7notes」に入力した文字を拡大表示させたり、「筆順辞典」を漢字の形や書き方の見本として使ったりした（活用場面は写真3～6）。作文課題の場面に限らず、書き方がわからない漢字があるときには、「筆順辞典」を活用した。

この他、漢字学習に積極的に取り組んで書ける漢字を増やせるよう、「楽しく学べる漢字シリーズ」を漢字学習の宿題として活用した。

表3 活用したアプリ

活用したアプリ	アプリの機能
	メモアプリ。キーボード入力のほか、手書きした文字を変換して入力したり入力した文字を拡大して表示できたりする。
	漢字の筆順を示すことができるアプリ。筆順だけにとどまらず、わからない漢字を手書きから検索したり、読み方を調べたりと多様な使い方ができる。漢字の見本としても活用できる。
	手書き入力による漢字練習アプリ。読み・書きの練習やテスト機能が付いている。学習した記録が残るので、学習ペースや定着度がわかりやすい。



写真3 文字の入力



写真4 文字の拡大



写真5 筆順辞典の活用



写真6 清書

・対象児の事後の変化

(1) 生活時間の管理

対象児の登校時刻は表4に示した通り早くなり、遅刻となることが減った。2016年12月から始めた一人での歩き登校は、現在も継続して行なっている。対象児はどれだけ歩き登校に時間がかかるかということを意識するようになった。

(2) 書字をスムーズに

対象児は「7notes」や「筆順辞典」を学習場面で活用した。作文課題では下書きを「7notes」への入力で行い、入力の際に文字変換で示された漢字を清書用の見本として使用した。「7notes」を使った結果、下書きにかかる時間は大きく減少した。清書にあたり「7notes」の文字拡大や「筆順辞典」を使い、漢字の見本とした。その結果、漢字を正しく丁寧に書くようになった。また、作文内で漢字を使う割合が取り組み以前と比較して大きく上昇した。

【報告者の気づきとエビデンス】

《生活時間の管理》

・主観的気づき

iPadを生活時間の管理に導入したことで、対象児が「遅刻しないように登校しよう」という意識をもち、生活するようになり、結果として登校時刻が早くなった。また、この導入が契機となり、対象児自身が変化してきたことで、登校に対して家族の積極的な関与を得られるようになった。

・エビデンス(具体的数値など)

対象児の平均起床時刻と平均登校時刻を表4に示した。平均起床時刻はSleepCycle導入前と大きな変化はないものの、平均登校時刻はSleepCycle導入前と導入後とで大きく変化した。対象児からの聞き取りによると朝起こされることが減ったとのことであった。また、車での登校の際には混まない道を通るようになったり、間に合うように出発するようになったりしたとのことで、家族の「間に合わせよう」という姿勢が見えてきた。対象児が早く登校することに価値を見出し、スムーズに自主的に起床するようになったことで、家庭の積極的な姿勢に繋がったものと考えられる。

表4 対象児の平均起床時刻と平均登校時刻

	SleepCycle 導入前	SleepCycle 導入後	現在
平均起床時刻	7:00前後 (対象児聞き取り)	6:50 (使用時の平均)	7:00前後 (対象児聞き取り)
平均登校時刻	8:38	8:26	8:18

一人での歩き登校についても、担任からの働きかけにすぐ反応があり、家庭の協力を得ることができた。この取り組みによって対象児は歩くとどれだけ時間がかかるか、いつ出発すればよいかを把握できるようになった。登校時に車で家を出発して途中から歩いて登校することもあるのだが、それでは家から歩いたのと時間が変わらないと冷静に分析を行なうこともできた。

《書字をスムーズに》

・主観的気づき

「自分で漢字が書ける」という経験を積んだことで、漢字を使うことや書くことへの抵抗感が薄れ、積極的に漢字を書いたり使ったりようになった。この取り組みを継続して行なってきた結果、漢字に限らず書字全般のスムーズさが増し、丁寧に字を書いたり書くスピードが速くなったりできるようになった。

・エビデンス(具体的数値など)

対象児が書いた作文について、漢字を使用した割合を表5に示した。iPadの導入前と導入後では漢字の使用率が大きく上昇した。また、見本を見ながら書けるようになったことで、漢字に限らずひらがなにおいても丁寧に書字をするようになった。(写真7)

表5 作文課題における対象児の漢字の使用割合

	全文字数(字)	漢字の数(字)	漢字の使用率
導入前の作文 (2016年2月)	202	5	2.5%
導入後の作文 (2016年9月)	416	98	23.6%
導入後の作文 (2016年12月)	284	113	39.8%
導入後の作文 (2017年2月)	468	124	26.5%

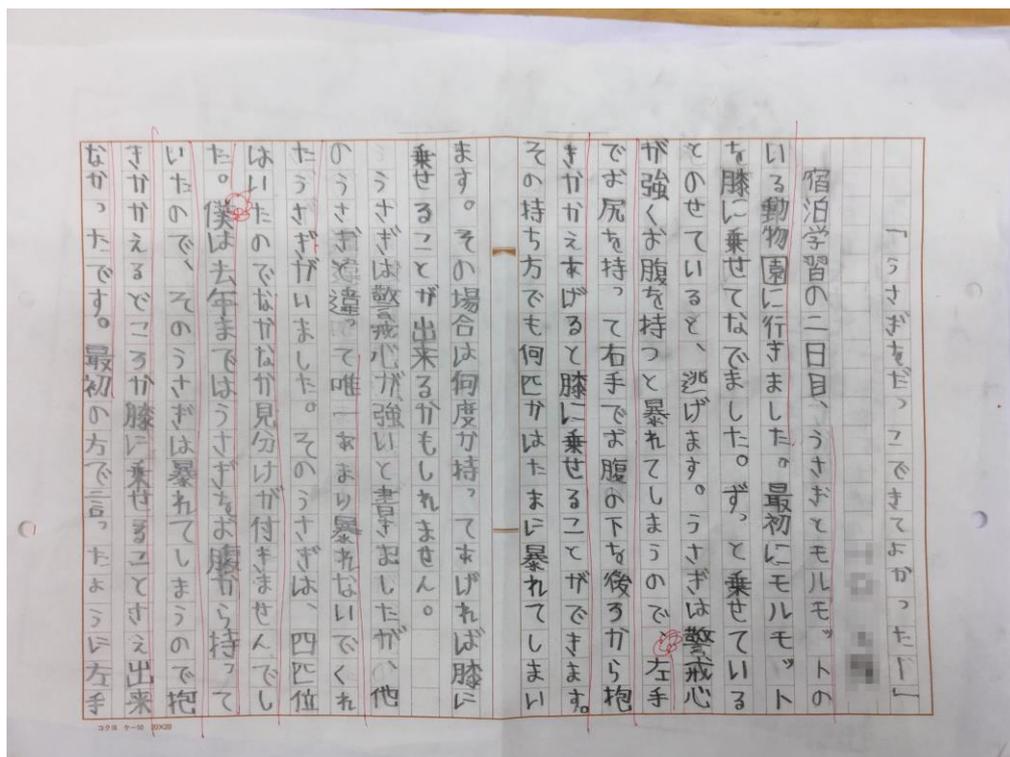


写真7 作文の例

2017年2月に再度 URAWSS を実施した。書き速度の結果について比較すると（表6）評価そのものはCで変わらなかったものの書き速度は有意味文・無意味文ともに上昇が見られ、無意味文の書き速度については6月と比較して約1.5倍に速くなった。書字の様子は以前に実施した時よりもスムーズで、特に漢字の書字は一画ずつ確認しながらではあるものの特に止まることなく行なっていた。この課題中に示された「道」という字は6月時点では正しい形で書けなかったものの、2月時点では部首「之繞」の形や「首」の構成要素が正しい形で書けるようになっていた。

表6 URAWSS によるアセスメント結果の比較

	2016年6月の結果	2017年2月の結果	2017年2月の評価
①書き速度(有意味文)	14 字/分	16 字/分	C
②書き課題(無意味文)	11 字/分	16 字/分	C

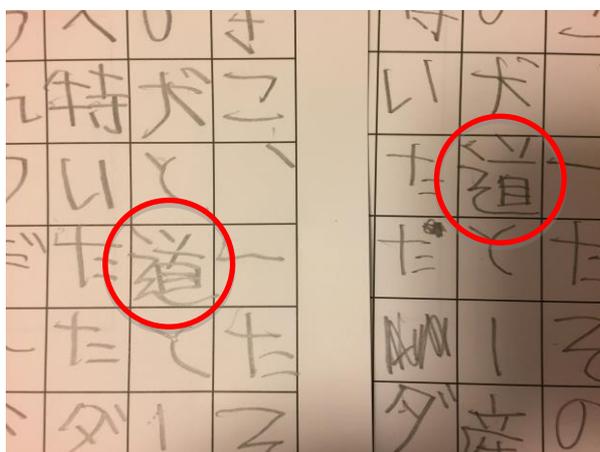


写真8 「道」の比較(右側が6月・左側が2月)

・その他エピソード(画像などを含めて)

(1) 対象児は夏休みの宿題として学級で行っている「絵日記」を書くときに「筆順辞典」を使用した。4枚の絵日記全てで「筆順辞典」を使って漢字を書いたとのことで、寿司の「寿」や「驚く」の「驚」など小学5年生ではまだ学習しない漢字を書くこともあった。宿題の中で積極的に漢字を使おうと努力する姿勢はこれまではなかったものであった。(写真8)

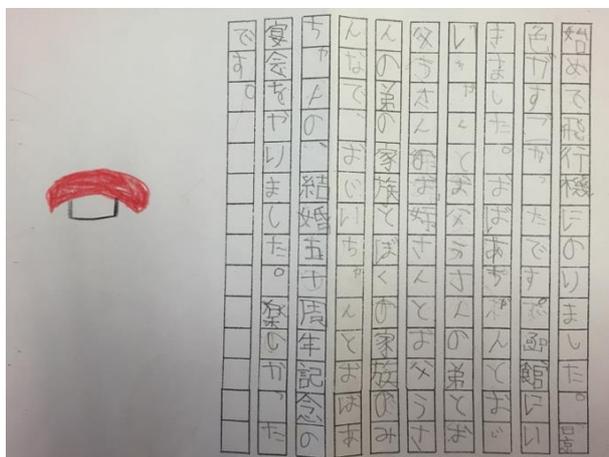


写真8 夏休みの絵日記宿題

(2) 算数の分数の学習中、「仮分数」とプリントに記入する場面があった。「仮」と言う文字がわからなかった対象児は「筆順辞典」を使って「仮」の字を調べて書くことができた。算数の学習場面で使ったことはこれが初めてであり、漢字を使って書きたい、という意欲が表れていた。この後も、様々な場面で漢字を書く必要がでてきた。その際、対象児は自分で iPad を出して「筆順辞典」を起動させ、漢字の形や筆順を調べて活用していた。わからないから自分で調べて解決しよう、という姿勢が学習場面や生活場面で見られた、

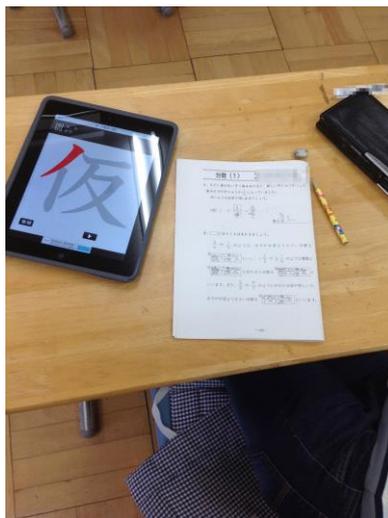


写真9 算数の学習での活用

(3) iPad の使用について、保護者から

1 学期通知表に対する家庭からの返信欄には、「タブレットを使うことで、字を書くことが積極的になった。」と好意的な評価がなされていた。対象児の変化として、家庭では書字に関する取り組みが最も高く評価されていたことが明らかとなった。3 学期に入り保護者に聞き取りを行ったところ、「子供に任せていた部分があり、操作法などをもっと知っておいてもよかったかもしれない」との反応があった。